



radio Camnetに続くマガジン版

# 心身健全！

Radio camnet「心身健全！」担当の川崎医科大学 衛生学 大槻剛巳です。心身健全は今年2012年からリニューアル！ 毎月3～4曲の旧曲(大槻が高校～大学の頃に作った楽曲を新たに録音しながら(新録)お届けするMUSICと、日々の雑感や参加した学会その他の話題のBASIC、そして医学医療系の話題を中心にするMEDICALです。お時間がありましたら聴いてみてください。また、応援メッセージも本当にありがとうございます。BBSでレスしていますので覗いてください。

さて、いつもながら学会やら諸々で動き回ったりもします。そしてこのマガジン版のコラムでは、その様子を紹介してきたのですが、ふと、気づきました。全く、季節感を喪失していました。そりゃあそうですね。リアルに今年動き回った報告を、それも2ヶ月ごとのマガジンで紹介すると・・・取り残してきた季節の残像ばかりを紹介することになったと思います。

って思ったので、今回は季節感を重視することにしました。



「2009年晩夏の芦花公園」

これは、2009年12月11日に訪れた芦花公園です。その時は「日本免疫毒性学会の運営委員会、そして、日本臨床環境医学会の編集委員会」で、東京でした。今回は宿泊先のANAパックで出張・・・で、東京に早目に着いて(上記の二つの会議は渋谷だったので)渋谷駅のコインロッカーに資料の荷物を預けて、渋谷からってことで京王の井の頭線と京王線で芦花公園駅まで向かいました・・・って流れてました。



「芦花公園の秋」

確か、当日も雨でした。少し冷たい雨の中、庭園の晩秋に包まれていました。この名前の由来はもちろん「徳富蘆花」です。



「徳富蘆花旧宅」

そこには旧宅が残されていました。明治大正期の小説家で「不如帰」が有名です。それと、このコラムを書いていて知ったのですが、「富」の字はウ冠ではなく、ワ冠なんです(こだわりがあったそうです)。



「徳富蘆花の旧」

そして晩秋の飴に打たれる藁葺屋根には、本当に旅情っていうか静謐な歴史が感じられてとってもステキでした。



「徳富蘆花旧宅外観」

そして中の見学もできましたし、なんだか時代を戻って明治の気骨と、しかし政治に翻弄される足早な時を感じる場所でした。



「芦花公園の紅葉・黄葉」

その頃はまだ丁度武蔵野に向かう手前で、雑木林なども多かった頃かも知れません。また、広い公園なのですが、旧宅の周囲には夫人(お名前は愛子さん)の住居跡なども残っていました。風情でした。

竹塀などが残っていて、それでも当時の慎ましい生活が感じられました。更には記念館なども(入らなかったのですが)あり、そして墓所もあったのです。



「徳富蘆花の墓」

ちゃんと夫妻の墓ですって案内板もありました。すでに12月に入った冷たい雨の日で、ほかに周囲を散策するような人も居ず、敷き詰められたような落ち葉の小径を傘を傾けながら巡っている中で、歴史と時代への想いを募らせることが出来ました(ただ、その分、その後にある学会の委員会のことをつつい失念しそうになってしまいましたけれど)。



「黄色い絨毯」

さて、今年の秋の彩はどのようなのでしょうか？酷暑の夏や自然災害の多いことがいつも当たり前のようになってきている今の地球。授業の中で、地球環境(温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨など)の問題にも触れている中で、なんだか「異常気象」と呼ばれる天候気候であっても、ではどういった状態が「正常」な気象なんだっけ、ってことを忘れそうになります。

ただ、それでも秋は人それぞれの気持ちが、山



裾を彩る木の葉の色に、そして夕焼け空の鮮やかな階層の色合いに、落ち着いて、そしてなぜか哀愁を感じてしまうような季節です。昔の自分の突っ走っていた頃の失敗や、なぜか離れ離れになった恋人の面差しが哀愁とともに浮かんでくる季節です。そんな時に、こんな人気のない公園で彼方の歴史に包まれているだけで、なんだか寂寥を寄せた一陣の風が心の中を吹き抜けるような感覚に捉われてしまいます。



芦花公園内の子供向け親水公園

こんな情景も、きっと夏の透き通る陽射しの中では、子供たちの歓声に溢れているのでしょうか。

このコラムが誌面に載る頃には、今年の秋の学会などでまた別の秋の景色を見つけることが出来ていれば、そしてそこには振り捨ててきた情景の匂いが仄かに立ちのぼってきているのかも知れません。

もの想う秋、そしてそんなひと時に浸ってみるのも人生かも知れませんね！

さて、では今回の歌詞紹介！  
季節に合わせて…

『プラットホーム ～3～』

秋風と 遊ぶ光

くぐり抜けながら 二人は

俤を一つひとつ

確かめることに おぼれた

指先に こぼれそうな

今も美しい 思い出さえ

消えそうな 朝の霧に

連れ去られてゆく 遠くへ

白い頬 濡らす涙

唇を寄せて 拭えば

サヨナラを 告げる前に

揺れ動く心 砕ける

もう次の 列車が来る

からめた小指を 離れたなら

あなたへの 贈り物は

プラットホームの サヨナラ

あなたへの 贈り物は

プラットホームの サヨナラ



♪オリジナルCDプレゼントします！  
詳しくはプレゼントコーナーで

♪聴いて！

東北関東大震災オリジナル復興支援ソング

<http://www.youtube.com/watch?v=YFd0vHdwhyc>

<http://www.youtube.com/watch?v=CW7syPcr iku>



【プロフィール／大槻 剛巳(おおつき たけみ)】

川崎医科大学衛生学教授

0歳：京都府福知山市にて生誕

14歳：京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位

14歳：KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用

15歳：倉敷市に転居

15&18歳：NHKあなたのメロディー出演

18歳：YAMAHAポプコン全国大会(譜面の部)出場

20歳：YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり

24歳：川崎医科大学卒業

以降：川崎医科大学血液内科～衛生学にて診療・研究・教育に従事

1992-1996年：米国留学(医学研究)

1996年：岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山の文学」に掲載

2009年：Camnet CH-F(10-19)パーソナリティ担当

現在に至る